愛知東邦大学 シラバス

開講年度(Year)	2025年度	開講期(Semester)	後期
授業科目名(Course name)	多文化理解教育		
担当者(Instructors)	星野 晶成	配当年次(Dividend year)	3
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

グローバル化が進み、多文化が混在する時代を迎えている。これに伴い、多くの学校、保育園や幼稚園に外国にルーツを持つ子どもが在籍するなど、教室の国際化と多文化化が急速に進んでいる。一方、この変化によって多くの教育的問題や課題が発生している。特に、愛知県は日本語指導が必要な外国にルーツを持つ子どもが最も多く在籍している。そのような状況を踏まえ、まずは多文化教育の意義とその現状を知ることから始め、次に外国にルーツをもつ子どもたちと日本の子どもたちとの多文化共生の教育をどのように進めていけばよいかについて考える。そのため授業では、日本に滞在する外国にルーツを持つ子ども実態や先進的な取組事例を紹介しながら、多文化理解教育をすすめる上での諸課題を取り上げて具体的に検討する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	講義
授業の方法(Class method)	主に講義形式で行うが、グループワーク、アクティビティ、ワークショップ、映像など多様な方法を用いて、学生が受け身ではなく能動的に学べるようにする。世界の教育事情、多文化理解教育の取り組みを知るため、講師を招いて話を聞く機会を設ける予定にしている。毎回、授業の終わりには所定のWebページに振り返りのコメントを記入して提出する。後半の授業では、学生自身が多文化を疑似体験できるような多文化ワークショップを通じて、少数派になった時の立場を理解する。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	文化とは？ 多文化理解教育の意義を考える	文化の定義を考える。教室の国際化や多文化化が進んでいる現状に目を向け、多文化理解教育の重要性を認識する。	□
第2回	国際移民の急増と日本社会の変容	グローバル化により国際移民が急増していることで、国民国家、および日本社会がどのように変容し、教育に影響を与えているか考える。	□
第3回	日本社会の多文化化①オールドーカマー	在日朝鮮人の形成を歴史的背景と現状から理解し、そこから教育課題を検討する。	□
第4回	日本社会の多文化化②ニューカマー	東南アジア系とブラジル系移民の渡日背景を理解し、そこから教育課題を検討する。	□
第5回	日本社会の多文化化③海外帰国生	海外で学ぶ子どもたちの現状と課題を知り、帰国後に抱える教育問題についてを検討する。	□
第6回	日本社会の多文化化④留学生	日本における外国人留学生と日本からの海外留学の現状と問題を理解する。	□
第7回	アメリカにおける多文化教育	アメリカの多文化教育事情を知り、教育の必要性を認識するとともに、今後の教育の在り方を考える。	□
第8回	オーストラリアにおける多文化教育	オーストラリアの多文化教育事情を知り、教育の必要性を認識するとともに、今後の教育の在り方を考える。	□
第9回	日本における多文化教育の現状と課題①	統計をもとに外国にルーツを持つ子どもが抱えている制度の壁、言語の壁、心の壁の3つの壁に目を向ける。	□
第10回	日本における多文化教育の現状と課題②	愛知県は、日本語指導が必要な児童生徒の数が多い現状を知り、その子どもたちが抱える苦悩に目を向ける。	□
第11回	外部ゲスト講師	外国にルーツを持つ子供の保護者に登壇してもらい、日本で教育を受けるにあたっての問題や課題を共有してもらう。	□
第12回	多文化理解教育実践例	学校・学級づくりについて先進的な取組事例から、具体的にどのような多文化理解教育を実施しているかその取組を紹介する。	□
第13回	多文化ワークショップ①	異文化・多文化に関するワークショップを通して、多文化理解教育の重要性を体得するとともに、自身が少数派になった立場を体験する。	□

第14回	多文化ワークショップ②	異文化・多文化に関するワークショップを通して、多文化理解教育の重要性を体得するとともに、自身が少数派になった立場を体験する。	□
第15回	最終レポート課題についての学生同士の議論	受講生が最終レポート作成のために選択した書籍の内容とその感想を学生同士で共有し、議論する。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

毎授業ごとのテーマに関する文献を事前に共有します。その文献を読んでから授業に出席することを奨励します。また、日常的に教育にかかわる新聞記事や報道、インターネット情報に興味・関心をもち、教育や保育の現状と課題について認識を深めてもらいます（２時間程度）。授業で学んだことをきっかけに、さらに興味を持った教育テーマに関する文献を読んだり、情報収集を行なったりして主体的に課題を決めて学習を深め、課題レポートを作成します。（２時間程度）

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎時間、授業後にウェブ上に入力するり振り返りコメントの内容について、全体にフィードバックします。課題レポートは最終日の授業の中で、全体で共有します。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	愛知県内の多くの小中学校、保育園や幼稚園には、外国人児童生徒や外国人園児が多数在籍しており、彼らが抱えている３つの壁について説明することができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	多文化共生とグローバルな視点から多文化理解教育の重要性を理解し、教育実践の在り方について説明することができる。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	「持続可能な社会の担い手」を育成するために、多文化共生の教育活動を行うことの重要性を認識し実践力を習得している。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験（in-class exam)	その他(Other)
			70%	30%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業内試験：授業で興味を持ったテーマに関する研究レポートその他：所定ウェブに入力する毎授業ごとの振り返りコメント

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	なし	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	授業で適宜紹介します。	
2		
3		
4		
5		